



人類はなぜウシを飼って酪農を続けてきたのでしょうか。クラーク先生から出発した北大の酪農史もまた、多くの変遷をたどりながら酪農が奇跡的に守られています。先人たちがバトンを繋いできた北海道大学の酪農。過去をしっかりと検証することで、大都会のど真ん中にある酪農の大きな価値の発見があるかもしれません。明治9年に札幌農学校として開学いたしました北海道大学も観光目的地として連日多くの旅行者が訪れています。そこで今回は、「酪農」という視点を通じて北大観光の未来を語り合う場として、自ら酪農の経験を持ち、地方自治に携わり農村観光の推進に力を注がれた、小山邦武氏をはじめ、北大に造詣が深いスピーカーとともに、フィールドワーク、ディスカッションの場を設けました。皆さんお来場をお待ちいたします。

「酪農から見えてくる北大観光の未来」

2018.9.18 (火) 9:00-15:30

- 1.内容：北大キャンパス内の第1農場、第2農場を関係者の解説のもとに見学し、その後、表題についてスピーカーの話題提供のもとにディスカッションします
- 2.場所：北大キャンパス 及び 学術交流会館
(北大第2農場 モデルバーン、第1農場 現牛舎及び放牧地)
- 3.会費：1,500円 (北大マルシェによる昼食お弁当代)
- 4.実施詳細：裏面スケジュールの通り
- 5.その他：原則は午前午後の参加ですが、午後だけの参加も可能です

共催：北海道大学 観光学高等研究センター
酪農から見えてくる北大観光の未来の集い 発起人一同

申し込み・
問い合わせは

北海道大学 観光学高等研究センター 木村
kimura@cats.hokudai.ac.jp

北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 三谷
tmitani@fsc.hokudai.ac.jp

タイムスケジュール

- 9:00 学術交流会館集合 & オリエンテーション
- 9:30 交流会館出発（車）
- 9:40 北大第2農場 モデルバーン着
モデルバーン見学（近藤先生のご案内にて）
- 10:30 モデルバーン出発
徒歩で北大第1農場まで（遺跡公園を通過して）移動
- 10:45 北大第1農場 現牛舎着
現牛舎見学（三谷先生のご案内にて）
- 11:45 北大第1農場出発（車）
天気が良ければ農場付近でお弁当（北大マルシェ提供）
学術交流会館到着（農場で昼食取れない場合は会館にて）
- 13:00 考える集い（座談会）開始
- 15:30 終了

座談会メンバー

《司会進行》

木村 宏 （北大 観光学高等研究センター 特任教授）

《パネラー》

小山邦武 （元長野県飯山市長、現信州味噌(株)取締役会長）

尾田栄章 （元建設省河川局長、NPO法人渋谷川ルネッサンス代表）

和田康広 （札幌市観光・MICE推進部観光魅力づくり担当課長）

近藤誠司 （元北大農学部教授、現モデルバーン学術研究員）

三谷朋弘 （北大 北方生物圏フィールド科学センター 助教）

座談会では、各パネラーからの問題提起や話題提供の後、✓北大農場（酪農）の歴史・変遷、✓北大農場の在り方・観光の可能性、✓北海道酪農の在り方（大規模化⇔家族経営）✓酪農の価値とは、牛乳、景観、多面的機能… などについて会場の参加者も交えディスカッションを行う予定です。

参加申込

氏名	
連絡先（電話番号）	連絡先（メールアドレス）
参加 午前と午後出席（弁当は必要・不要） / 午後のみ出席（弁当は必要・不要）	

mail:kimura@cats.hokudai.ac.jp
または fax : 011-706-5362 まで（9/15締切）